

第1回三国協力事務局セミナー

ERINA 調査研究部主任研究員 中島朋義

6月28日にソウルで開催された第1回三国協力事務局セミナーに、報告者として参加する機会を得た。

三国協力事務局は現状では知名度は高くないと思われるが、独立した国際機関である。2009年の日中韓首脳会談において、韓国の李明博大統領の提案に基づき設立が合意され、2011年に活動を開始した。事務局はソウルにおかれ、事務局長は韓国の申鳳吉氏、二人の事務局次長は、中国の毛寧氏と日本の松川るい氏がそれぞれ務めている。現在の活動は三国首脳会談の支援が中心であるが、三国間の協力に関する事柄全般を広く視野に入れて組織づくりを行っている。今般、機関として初めての国際セミナーを開催することとなり、ERINAは報告者派遣の要請を受けた。

セミナー（写真）は“Deeping Partnership between Trilateral Cooperation and ASEAN: Towards the Vision of an East Asian Community”というテーマを掲げ、日中韓の三国間協力とASEANの関係の深化を、東アジア全体の視野から議論する構成となった。

筆者はこの内、FTA（自由貿易協定）等の経済協力を議論するセッションで、“The TPP and East Asian Economic Integration: From the Japan-China-ROK perspective”と題し、最近動きのあるTPP（環太平洋経済連携協定）と東アジア経済統合の関係について報告を行った。この他、日本からは慶應義塾大学東アジア研究所長の添谷芳秀氏、韓国

写真 セミナー会場



（出所）筆者撮影

からはERINAと協力関係にある対外経済政策研究院(KIEP)研究委員の李昌在氏、中国からは外交学院東アジア研究センター所長の魏玲氏がそれぞれ報告を行った。またASEANからはASEAN事務局のBALA K. Palaniappann氏他が報告を行った。

設立後、間もないとはいえ、北東アジアの要とも言える日中韓三国間の協力推進という重要な役割を負う機関が開催する初めての国際セミナーに、報告者として参画できたことは、ERINAの活動にとっても喜ばしいことである。今後とも三国協力事務局の活動に対し協力を努めたい。